

ディスプレイウォールシステム

岩永敏弥*
 渋江重教*
 山辺俊樹*

Display Wall System

Toshiya Iwanaga, Shigenori Shibue, Toshiki Yamabe

要旨

三菱電機のDLP(Digital Light Processing)^{注1)}方式大型監視表示システム(ディスプレイウォールシステム)は、製品化してからすでに35,000台以上を全世界に納入してきた。

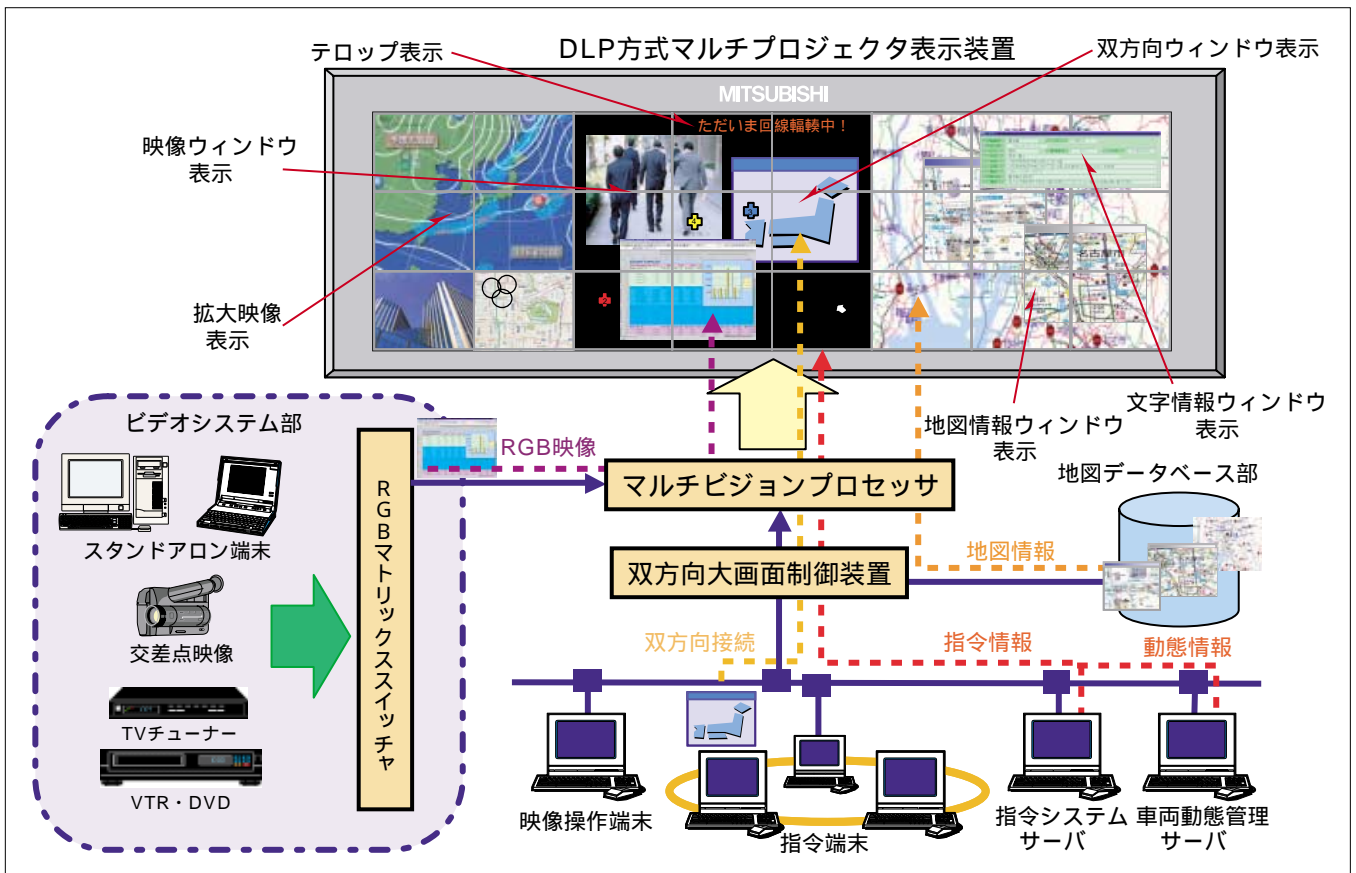
その多くは、電力・通信・上下水道等いわゆるインフラにおける設備の監視、警察・消防等における事件・事故・火災等の監視指令、道路・河川・ダム等の防災監視、台風や地震等の災害対策、鉄道・航空等の路線運行監視等、人々の安全・安心を守るために24時間365日稼働する重要な設備として活用されている。

こうした設備における製品・システムへの最大の要求は

(注1) DLPは、米国テキサス・インスツルメンツ社の登録商標である。

高信頼性である。24時間の監視の中でその業務が中断されることがあってはならず、また設備として5~10年の長期にわたって動作し続けなければならない。さらに、監視者が多くの情報を容易に取り扱える操作環境と必要な機能の実現、長時間の運用でも人に優しい高い視認性も要求されている。設置環境では、省スペース性も重要なファクターであり、保守の容易性も必要になってくる。

本稿では、当社の製品の持つ最新の技術とディスプレイウォールシステムを構築するディスプレイウォールプロセッサについて述べる。また、最近の監視分野以外での新しいソリューションについても納入事例を含めて述べる。



代表的なディスプレイウォールシステムのシステム構成⁽¹⁾

XGA(eXtended Graphics Array)^{注2)}(1,024×768ドット)又は、SXGA+(Super XGA Plus)(1,400×1,050ドット)の解像度を1ユニットとする表示装置を基本構成としてこれらを複数組み合わせることによって高解像度、大画面を実現する。表示装置として、高信頼性と映像全体の一体感、視認性が求められ、システム側として多くの情報をいかに効率よく、容易な操作性で表示を可能にするかが求められる。

(注2) XGAは、米国IBM社の登録商標である。